農都交流プロジェクト(2013年度)プログラムに参加した「地元関係者の声」「都市企業・大学生の声」

農都交流プログラム実施に携わった地元関係者の声

◇都市の企業との交流は、地域の農業者たちの「誇り」や「やる気」「元気」の復活にもつながる
◇知らない人と一緒に時間を過ごしたり、いろいろな話をするのは本当に楽しい！農都交流をやっていなかったら、こういう出会いはなかったはずだ
◇当地は都会の人々との交流とは無縁かと思っていたが、農都交流の手法をつかえば可能なのだと気付いた
◇すでに地域にある素材をつかえばよい、普段の自分たちの暮らしを見せればよい、ということなので、それほど無理なことではないと思った
◇都会の人と顔の見える関係がつくれれば、農業問題の解決にもつながる
◇一回限りのイベントではなく、継続性のある交流が実現できる。企業の研修で来た若い人が、今度はプライベートで来てくれるようになった

農山村での企業研修やモニターツアーなどに参加した企業・組織関係者や大学生などの声

■若い社員向けに、異空間・異年齢・異業種の人たちとの交流経験の場をつくることで、農村や里山を深い学びの場として活用できるのではないか。仕事の場をはなれたOFF-JTとしての効果も大きい(研修会社)
■農山村での目に見えないノウハウは、日常の仕事をする上でのヒントになる。農山村で日常行われているコミュニケーションは、都市で働く社員に新たな気付きをもたらす (機械メーカー)
■農村でのプログラムから学ぶことは多いが、とくに自らの「生き様」や自然環境に対する意識改善がメインになるような気がする(OA機器メーカー)
■仕事の基本は人とのつながりや助け合うことだと気づかせてくれる (機械メーカー)
■一緒に来た同期との共同作業からは、チームワークや時間管理など、仕事に直結する気づきが得られた(旅行会社新入社員)
■私は大学時代に日本に来たが、今回は新しい「日本」を感じることができた(旅行会社新入社員:中国人)
■企業の人財育成のほか、労働組合のレク活動などにもつかえる(企業コンサルタント)
■日本に来て10年以上たつが、田舎に来るのははじめて。村の人たちはフレンドリーだし、食べ物はおいしいし、最高。日本にふるさとができた。また来たい (日本企業のブラジル人従業員)

■農都交流推進チーム:農都交流のプログラムの実施・導入に向けた支援体制

①農山漁村地域: 農都交流のプログラムを実施して、都市との交流を創造したいと考えている地域のみなさん
→都市型企業等との交流を創出するための、地元での意識醸成や地域資源再評価、プログラムづくりなどをお手伝いします
②都市型企業・組織、大学など: 農山村地域で、自社(組織)の活動(人材育成、チームビルディング、CSRなど)展開を検討している企業や組織、大学生のみなさん
→貴社の課題やニーズに合致したプログラムを展開できる地域とのマッチングやプログラムづくりをお手伝いします

◎お問い合わせ: 農都交流プロジェクト推進事務局(JTBコーポレートセールス営業推進本部内)
TEL (03)5909-8439 メール noto@bwt.jtb.jp
担当:堀内、中村、石川

□3月6日(木)全国セミナー会場アクセス 会場:「大手町サンケイプラザ」 2階201号室
・東京メトロ(丸ノ内線、半蔵門線、千代田線、東西線)・都営三田線 大手町駅下車 A4・E1出口直結
http://www.s-plaza.com/access/index.html

２. ワークショップの実施

８月に開催した全国セミナーに参加した地域関係者を中心に、「農都交流」についてより深い理解を形成するとともに、実際に取り組むための方策を考える場として、ワークショップを開催した。

ワークショップの会場を、一早く農都交流活動に取り組み成果をあげている福島県飯豊町として、飯豊町の取り組みやプログラム等を体験する事例研修会としても実施した。

①ワークショップの実施

（実施概要）

平成２５年１０月２３日（水）～２４日（木）（２日間）
山形県飯豊町中津川地区

（参加者）

男性１７人、女性７人、計２４人

（参加地域）

山形県（新庄市、川西町、村山市、鮭川村）
福島県（山都町、昭和村）
岩手県（遠野市）、宮城県（丸森町）、静岡県（掛川市）、千葉県（館山市）、奈良県、滋賀県、その他
山形県（新庄市、川西町、村山市、鮭川村）

（プログラム）

◆１日目
- 開講式
- 基調講演
- フィールドワーク実習
- ワークショップ（グループワーク）
- 交流会

◆２日目
- ワークショップ（グループワーク）
- グループ発表会と討議・講評
- 閉講式

②ワークショップの行程

第１日目（10 月 23 日(水)）

◆集合（JR 赤湯駅又はホテルフォレストいいで（飯豊町中津川））

◆開講式（13：30）
・飯豊町からの挨拶
・オリエンテーション

◆午後（13：45～17：30 頃）
①基調講演「農の立場から「農都交流」を考える」
（講師）星　寛治氏（農業・詩人）
②フィールドワーク実習「地元を知る」
（講師）澁澤　寿一氏
③ワークショップ（グループワーク）
「都市と農村をつなぐ。農都交流のプログラムを考える」

◆夕食交流会
・飯豊町の食材や郷土料理を使った夕食と町民との交流

第２日目（10 月 24 日(木)）

◆午前（9：00～12：00）
①ワークショップ（グループワーク）
１日目の「都市と農村をつなぐ。農都交流のプログラムを考える」を引き続き実施
（昼食）

◆午後（12：30～14：00）
①グループ発表会
②意見交換

◆閉講式（14：00 頃）

◆解散

③ワークショップ参加者へのアンケート結果

Q1. 印象に残ったプログラム

№.回答者	印象に残ったもの	理由
01 山形県 女性	中津川展望台	中津川を見おろした時、改めて自然に囲まれた素晴らしい所だと感じました。中津川という場所が一生残っていてほしいと思った。
	草木塔、炭焼き小屋	山に囲まれた田畑の風景がとてもきれいでした。 きれいな水に、手入れされたところが、自然な風景ですごくいやされた。いやしやパワーをもらえるような気がした。
	2日目モデルプログラム 農家民宿の方との交流	プログラム制作中に、民宿のおかあさん方を交えることでたくさんアドバイスや、ポイントなどを教わることができてとても良かった。
02 福島県 男性	グループワーク②	自分の地域でのプログラム作りに対して、最近考えすぎて煮詰まってしまったので、異なる地域で異なる資源を活用するアイデアを考える、他人のアイデアを聞くことで自分の頭の中をリフレッシュさせることができた。
	交流会	いろんな地域の方と情報交換ができてよかった。また、牛がめちゃくちゃおいしかった！
03 静岡県 女性	中津川地区展望	静かなたたずまい。四方をきれいな山々に囲まれてステキでした。
	農家民宿拝見や地元の方々とのお話を聞けた	アットホームに迎える事の大切さ。
04 山形県 女性	2日目のワークショップ	他の地域のことを、様々な所から来た人で話し合うことが楽しかったし、いろんな意見があるのだなと勉強になりました。
05 静岡県 女性	基調講演	いのちを守る農を貫く、自分の代だけではなく、次の世代につないでいく事の大切さを知った。
	フィールドワーク	農家民宿のみなさんのいきいきと自信を持って語られる事に感動しました。
	グループワーク	自分の地元を他地区の方にプロデュースしていただき、自分の気づかない新たな発見ができたと思います。
06 宮城県 男性	展望台視察	展望台から集落を俯瞰することで、中津川地域の特性が理解できた。また、澁澤氏の丁寧な説明により、中津川の生活の歴史を知ることができた。
	グループワーク	私のグループは館山市を対象地域として研究を行った。自分の町で活かせる様な意見が多数あり、参考になった。
	農家民宿視察	実際にお宅を見せてもらうことで、農家民泊の具体的なイメージを掴むことができた。
07 千葉県 男性	農家民泊	実際に農家民泊の中を見学することができてよかった。
	古民家	町が管理して有効活用していることに感心。活用の幅の広さなど、この事業に最適でよいと思う。
	農家民泊のお母さんとの交流	農家民泊に対する思いが聞けてよいと思う。
08 山形県 女性	展望台	桃源郷、展望台から見下ろした村の景色は、まさしく桃源郷財産ですね。
	懇親会	農家民宿のお母さん達の生き生きとした笑顔に元気をもらいました。自信を持ってやっていますね。
	グループワーク	初めて会った人達と同じ問題で話し合い考えて行く過程の楽しさ、むずかしさ。
09 山形県 女性	フィールドワーク	展望台から地域全体が見わたせることに感動しました。また、農家民宿がまとまっていて、家の前に表示をするなど、工夫されていて勉強になりました。
	交流会	農家民宿を実際に行っている方々と直接お話ができ、勉強になりました。交流会の際もお母さん方が席をまわっている姿に、おもてなしの心を感じました。米沢牛（飯豊牛）おいしかったです。
	グループワーク	実際にプログラムの作り方を学ぶことができ、今後地元にもちかえって参考にしていきたいと思います。
10 奈良県 男性	農家民泊への訪問	初めて家の中まで入らせていただき、様子をうかがうことができました。
	夜の交流会	地元の方と話しをすることができました。金もうけにならないけど、人もうけができると渡部さん＠農家民宿から聞けました。
	石川さんと澁澤さんのお話し	盛りだくさんでしたが、理解しやすく良い勉強をさせていただきました。
12 福島県 男性	2日目のワークショップ	企画づくりからのフィードバック
	夜の交流会	米沢牛のBBQ

No.回答者	印象に残ったもの	理由
13 千葉県 男性	中津川展望台	来訪された方々に地域を知って頂く。 ※中津川:キレイだが何も無い。
	農家民宿	普通の家・生活の中に入ってもらう事の重要性。
	交流会	民宿のおかみさんの生の話。
14 静岡県 女性	展望台	紅葉が色づいて、山のグラデーションがステキでした。飯豊山が雲にかかって残念だった。
	農家古民家	家の周りの風景が古民家とマッチして、絵になるようだった。
	班によるグループワーク	実際に実現するようで、おもしろかった。
15 山形県 男性	フィールドワーク	里山の美しさと民宿が実際に見学できてよかった。
	基調講演	星先生の熱意に感動。
	グループワーク	他地域の方々から、さまざまなアイデアをいただき、視点・視野が広がった。
16 山形県 男性	農家民宿とその皆さん	初めての見学でしたので、想像以上の主体的なお話しをいただいたと思う。 またJTBの皆さんを深く信頼していること。
17 山形県 男性	中津川展望台	中津川集落のすばらしさを別の角度から見る事ができたのと、農村のすばらしさを自ら認識した。
	グループワーク	違う地域の方とく討議をしながら迫ることで、それぞれの地域の考え方で知る事ができ、勉強になった。
	交流会	中津川に暮らす方と話しをし、自分が暮らす地域との相違を知る事ができた。
18 滋賀県 男性	グループワーク	それぞれの地域の現状を聞きながらプランを検討していくことは楽しかった。
19 宮城県 男性	フィールドワーク	澁澤先生の講話が印象に残っている。
	交流会	ブッフェスタイルがよかった。また、地区の方も参加されたところがよかった。
	グループワーク	最初からグループ分けしているところ。早くコミュニケーションがとれてよかったと思う。
20 岩手県 女性	星先生のお話	地元の方が伝統の大切さに気付き、長らくそれを継承する活動をされていること。 地元の若者への結果(経過？)が出始めていること。
	中津川地域視察	移住者として東北で生活している身として、東北はどこも綺麗(四季の移ろいの明確さ)だと感じる。
21 福島県 男性	展望台	集落周辺が一望できる場所があるのが、素晴らしい。山都でも探してみます。
22 福島県 男性	古民家	かやぶき屋根が残っていたので。
23 千葉県 男性	交流センターのように利用されている萱ぶき古民家	生活習慣、風土、景観、環境のいぶきを古民家を通じて感じられた。
	プログラム作成のワークショップ交流会	固定観念にとらわれない新しい考え方や方法に「目からうろこ」の時があり、他地域の方々と知り合えたこと。
	農家民泊の見学と女将さん達のお話と交流	民家民宿の実態と、経営者の意識や考え方が理解できた。
24 東京都 男性	グループワーク	普段作成することのない研修プログラムを各地域の実状を把握しながら、実行するための想像を行う経験ができたことが良かった。特に講評いただいたお話に今後の参考となるご意見があり、とても身になったと思う。
	フィールドワーク	飯豊町さんが大切にしている地域の資源をどう活用するのか、また、農家民宿を拝見したことで、農家のお母さんとの距離が身近に感じることができたこと。
	交流会	地元の方との意見交換で、なぜ飯豊に町に人が魅せられているのか、お母さんのぬくもりやあたたかさなど感じることができたこと。

Q2. 飯豊町について感じたことと自地域と比べての感想

①施設や交流資源・地域資源について

No.	感じた事	感想
1	町全体でのもてなしを感じる。皆さんの協力性や、一体感にあたたかさがある。	やる気や、自信、協力性などがまだ一体化していないと思う。
3	初めて訪ねた山形ですが、とてもきれいな処だった。	同じような山間地。山のきれいさと比べるなら茶畑のきれいさを見て頂きたい。
4	きれいな自然で大勢利用できる施設があって良い。	施設があって良い。
5	すべてに感動！熱い思いのまま帰ります！	―
6	住民や人といった資源を最大限に活用していると感じた。	当地域も中津川地区と同様に高齢化等の問題を抱えているので、中津川の取り組みを参考にしたい。
7	古民家や農家民泊など農村に触れることのできる施設が充実していてよい。	自分の地域にはない資源が豊富。
8	中津川の自然はうらやましいほど素敵な所。それに古里公社のような施設なども有り、本当にいやしの空間が有る。	私の住む集落は街場に近く、中津川のような自然にはかなわないが、それとはちがう文化財などが有るのでその辺を売りにしたい。
9	豊かな自然と施設もきれいでよかった。	私の村も自然は豊かでありますが、施設としては温泉などがある。
10	豊かな自然がいっぱい。山の紅葉がきれい。遊休農地がきれいに保全されている。	―
11	この環境の元に育ったみなさんステキだった。	―
12	豊富な施設があり、多様な受入プログラムができる。	施設面では課題はあるが、ソフトは足りている部分もある。
13	白川ダムの活用 ・カヤック ・カヌー	・水が豊富
14	年中そのままの自然が素晴らしい。	お茶時期の忙しい時の受け入れが課題。
15	きれいに整備されている。	―
16	―	多種多様な資源がある訳ではないこと。
17	農家民宿をはじめ交流施設が充実している。地域資源の活用がうまい。	農家民宿取得までいかない。同じような資源はあるが、うまく活用できていない。
18	全国の農村地域にある古民家や風景であると感じた。	―
19	豊かな自然環境、田舎風な建物など、ストーリー性が語られると思う。	目玉となる(象徴となる)ものがない。
20	農村が無理なく出来ることをやっている。	いているが、遠野の場合は古民家集落を施設化して提供しているのがさびしい。
21	展望台で書いたように、ロケーションを大事にしていていいと思った。	―
22	山々に囲まれた大自然。	何とも言えません。
23	地域で共有してきちんと保全しているなぁと感心した。	方向や方針がばらばら。
24	豊かな自然	都会の人を引きつける魅力があると感じた。

②受入に対する住民の態度や組織体制

No.	感じた事	感想
1	皆さんが同じ気持ちでもてなそうと一生懸命なのがとても伝わる。楽しそう。	まだ大変とか、疲れそうとか、マイナスイメージの人、収入や利益だけをもとめる感じがある。
3	地域全体でソフトに受け入れてもらえている感じがした。	
4	ウェルカムな感じで良いなと思った。	外部から来た人に対しての意識が高い。
6	地域の方々が一体となって外部からのお客を受け入れていることが強く印象に残った。	当地域では、残念ながら農村地域特有の閉鎖性が目立つ。今後改善したい。
7	民泊のお母さんは非常に元気で意欲的。	自分の地域の農家のお母さんたちは、これから気運を高めることが必要。
8	農家民宿をやっている人達、役所地域の人達が一体となって支えているように思う。	まだまだ私達の所は外からの人達を受け入れという事に積極的になれない。
9	積極的に人と話をされる方ばかりで、親しみやすくあたたかさを感じた。	私の村にも地域の中に結（ゆい）が残っている地域があり、人もあたたかい。
10	あたたかく迎え入れてもらった。なぜこんなに支障なく受け入れられるのか、まだ不思議に思っている。	―
12	受入を楽しむ姿勢。	同じく楽しむ姿勢を大切にしている。
13	なめこ栽培、炭、そして農家民宿等新しい事へのチャレンジ精神及び必要性。	今後の課題（受け入れ組織）。
14	町全体で受け入れ体制ができている。	住民の理解が充分に得られていない。
15	おもてなしの気持ち、地域愛を強く感じた。	―
16	たいへん重要で、それがまたしっかり実行体制ができていること。ここがかざらないおもてなしを組織のルールとして、実行されていること。	―
17	中津川集落の受入れに対する意識の高さを感じた。また、自分達の暮らす地域をどうしていくかすごく考えている事がすばらしかった。	受入や地域の将来についての意識がまだまだ低い。
18	地域の将来に不安を感じておられることはよく分かった。	―
19	「受け入れ」という意識が発展して「おもてなし」になっている感じがする。	「宿泊」の部分がどうしても手薄な今次がしている。
20	交流会に参加して詳しく聞きたかった。	同じ山間地の農村として、同様の印象。
21	農泊の多さに代表されるように、よその人との交流をみなさん楽しんで生きがいにしているように思った。組織の役割分担もすばらしい。	交流する楽しみが浸透していないというか知られてないので、「めんどくさい」など、食わず嫌いの面がある。
22	とてもよく感じた。	何とも言えない。
23	素朴だが心がこもっている。	まだまだ及ばない。
24	おもてなしをすることの考え方が違うと感じた。	観光に対するおもてなしになっていると感じる。

③飯豊町（行政）の事業や各種支援施策

No.	感じた事	感想
1	前向きである。	前進している。
2	首長をはじめ、行政の積極姿勢が感じられた。	役場と協力体制はとれているが、もっと一体となって取り組んできたい。
3	慣れていらっしゃる様子で立派だった。	－
4	とても整っていると思った。	みなさん積極的だと思った。
6	行政・公社、実践者間での連携が非常にうまく行っていると感じた。	各関係者の連絡、調整が効率的に行われていない。より強固な連携を目指したい。
7	発展途上の事業ではあるが、町一丸となってとりくんでいると感じる。	一部のもので検討するのでなく、市を上げてとりくんでいくべき。
9	町長自らワークショップに参加し、フィールドワークにも一緒にまわっている姿に感激した。説明なども課長が行うなど体制がすばらしいと思った。	交流に向けた受け入れ体制の整備がまだこれからなので、勉強しながら進めていきたい。
13	公的機関の重要性	今後の課題
14	積極的に取り組んでいる。	特定の人だけに限られていて、体勢が整っていない。
16	立場によって、役割が決まっており、片寄らないこと。	－
17	行政と連携がうまくできていて、すごくやりやすいと感じた。	行政との連携については、同じようにできている。
18	行政やまちづくり業議会の方々が、どこまでされているか分からないが、首長が当事業の戦闘となってされていることは、充分伝わってきた。	－
19	すごく体制が整っていると思う。	体制はその状況での対応になっている。
20	行政と住民の連携具合の詳細が知りたかった。	住民の主体性から行政が動き始める際の状況など。
21	すばらしいと思った。そういった「空気」が流れているのが。	火付け役はやはり行政が担うべきだなと思うが、そこまでいっていないような。
22	すばらしい体制ができていると思う。	何とも言えない。
23	これしかないっていう感じ。	いろいろあって的がしぼれていない。

Q3.今日のワークショップについて

①ワークショップへの評価

・とても参考になった　20 人
・まあ参考になった　3 人
・わからない、何ともいえない　1 人
・無回答　1 人

（とても役に立った）

・ いろいろな地域の取り組み特徴を学ぶことができた。夜の交流会も、とても中津川のイメージアップになるような素晴らしいもてなしだった。
・ 表面と重複するが、他の参加者の意見・アイデアが参考になることが多かった。
・ 私たちはこれからどう取り組んで行ったらよいのか検討しているところ。参考になるよい御意見を聞かせて頂いた。
・ いろんな意見がある中、まとめて一つの考えにするのは、とても難しいことだなと感じたが、勉強になった。
・ 当町でも将来的に民宿を利用したグリーン・ツーリズムに取り組みたいと考えているので、実践者の方達が農家民宿を中心とした農村体験で「人」という資源を最大限に活用していることに感銘を受けた。
・ 農家民泊の方との交流により、思いを感じ取ることができる。 ・ 他地域の方々との交流により参考となる情報が得られた。
・ グループごとに話し合い作り上げて行く過程が初めてだったので、勉強になった。
・ プログラムの作り方や考え方が学べたこと。 ・ 企業の求めるものをしっかりと理解することの重要性が学べたこと。 ・ 実際に受け入れをされている方の話が聞けたこと。 ・ 他の地域の話が聞けたこと。
・ いろんな地域、立場の方と話ができた。自分の仕事に活かせるヒントをいただけた。
・ 自分達がやっている人とのつながりの思いがやってよかったなぁと確信することが出来た。
・ ブループワークでのノウハウや課題の共用。 ・ 企画づくりからの講師のフィードバック。
・ 農家民泊のおかみさんのお話し及び見学ができた。
・ 参加の皆さんの取組みも、たいへん参考になった。グループワークでは、各地の状況を知ることができ、情報交換ができた。
・ 農都交流についてそれぞれの地域の現状や考え方を知る事ができ、今後の参考になった。また、モニターツアー実施まで進めている地域が少ないと改めて認識。自分達のやっている事について農都交流に興味がある団体にフィードバックしたいと思った。
・ モヤモヤしていたことがあきらかになり、地域の方々に話ができそうな気になった。

（まあ役に立った）

・ 実際自分の地区で受け入れるよう段取りをグループで考えて、他県の人達とも話し合いができてよかった。農家民宿の中村さんも交えて参考になった。
・ 全国の地域でどのような活動をされているのか、勉強になった。様々な地域の方々とお話させてもらうことは、楽しかった。
・ 東北内はどこも課題や取組みは似たりよったり。東北外から来られた方がこれからすすめようとされていることが新鮮だった。

（何ともいえない）

・ 農家民泊がなくても、この農都交流のプログラムを作ることは可能ということであったが、やはり、宿泊については、農家民泊がメインで考えていかなければならないと感じるところがある。 地域の人で農家民泊を実践していこうという人、またコミュニティを発掘、促進していかないといけない。

Q4.「農都交流」について知りたいこと、聞きたいこと

No.	聞きたいこと、知りたいこと
2	まずは一回実施してみてから、こういう場でプログラムをブラッシュアップしていきたい。
3	・農家民泊を営むには、どのような許可が必要か。 ・茶農家は一年中管理仕事があり、忙しい職業で受け入れをしようとするにはなかなか大変な面がある。大変な農作業を手伝ってもらうメニューでも良いのか？
6	今回は農都交流に関する方々と情報交換ができて非常に参考になった。従来のように「都会」と「農村」を対立軸として捉えるのではなく、相互に補完できるものとして考えていきたい。
7	・農家民泊の許認可関係のマニュアルがあればよいと思う。
9	本村でも今後、農都交流を推進していきたいと考えている。今回のワークショップの経験を自分の地域にあてはめてもう一度資源の見直しから行ってみようと思った。
10	当県で地域づくりに関わる多くの人に本プロジェクトを受講していただきたい。 米沢牛いっぱい食べたが、これも貴重なお土産、思い出だ。
13	・法的な諸問題 ・旅行業法の関係 ・企業、大学等へのアプローチ方法 ・アフターフォローの対応に関して ・利用可能な補助金に関して 以記情報入手を希望
14	農家民宿のおかあさん達もみえてくれて、話がきけて良かった。
16	交流するためのアイテムは、多数ある方だと思う。宿泊部分が問題で、農家民宿と組むべく地域をしぼった勉強会をしていくつもりだ。今回感じたのは「主役は農家、地域の人」であり、意識が高く、まっすぐで、もてなしの心が重要だということ。
17	都市部企業や大学とつながりが少ないため、地元の受入体制を整備しても、どのようにつながっていけばよいかが難しい。都市部企業や大学と地元をつなげるため、様々なアドバイスや手助けを頂きたい。
19	まだまだ勉強不足ということもあるが、農都交流事業というのは、教育旅行の大人版というイメージが今のところ強いと感じる。「そこでしかできない」というものは何があるのか、この事業を実施していくことが何の目的でお互いにどう効果をもたらすのか、という大きなテーマを作る必要があると感じた。
21	先進地巡検のボリュームをもっと増やしてもいいのではないかと思う。
24	次回以降も参加したいと思った。ネットワークのつくり方は、これからの課題になると思う。

（関連資料）ワークショップ開催案内書

農林水産省　平成25年度都市農村共生・対流総合対策（広域ネットワーク推進対策）事業

農山漁村地域と都市型企業双方の課題を解決する新しい交流・連携のスタイル

農都交流プロジェクト2013

ワークショップ＆事例研修会 開催のご案内

都市型企業と農山漁村地域間の新しい「交流」「連携」を創造し、双方に利益やメリットを生み出すという「農都交流プロジェクト」。
次回の研修は、すでに農都交流プロジェクトに取り組み、都会の企業との関係創出を実践している山形県飯豊町において、ワークショップ形式で実施します。
有機農業家としても有名で、自らも農都交流の必要性を説く星寛治さんの講演（予定）や、各地で里山地域と企業を結ぶ活動を行っている澁澤寿一さんのフィールドワーク実習、ワークショップ参加者が自ら実践するプログラムづくりグループワークなどを予定しております。
ぜひ、ご参加ください。

◇日程：2013年10月23日（水）～24日（木）　2日間

※オプション農家民宿宿泊体験参加者は、25日（金）までの3日間となります

◇会場：山形県 飯豊町 中津川地区 「ホテルフォレストいいで」ほか

□主な内容とスケジュール

◎1日目：10月23日（水）

□集合場所　①JR奥羽本線「赤湯駅」改札口　11時30分（飯豊町の送迎車で会場まで移動します）
②山形県飯豊町中津川「ホテルフォレストいいで」　13時15分（自家用車等のご利用となります）
※いずれも、昼食は持参するか、お済ませになってご集合ください。

○開講式（13時30分開始予定）
○基調講演　「農の立場から農都交流を考える（仮）」　講師：星　寛治氏（農業・詩人）
○フィールドワーク実習　「地元を知る」　講師：澁澤寿一氏
○ワークショップ（グループワーク）「都市と農村をつなぐ、農都交流のプログラムをつくる」　指導：澁澤寿一氏、石川智康氏および中津川地域の人たち
（17時30分ごろ終了）
○交流会（夕食会：希望者のみの参加。事前申し込みが必要です。参加費5，000円）　：ワークショップ参加者や地元の人たちとの意見交換会です
※ホテル宿泊を希望される場合は、別途お申込みください

◎2日目：10月24日（木）　9時～

○グループワーク（2日目）　○グループ発表会と討議・講評
○昼食（ご希望の方は事前にお申し込みください　1,500円）
○閉講式　（14時ごろ終了。JR利用者は、町の車で赤湯駅までお送りします。15時30分ごろ解散予定）

【オプション】飯豊・中津川の農家民宿宿泊体験　10月24日宿泊
（希望者のみ。事前申し込みが必要です。1泊2食・農家での体験プログラムつき8,500円）
・中津川地区で農都交流プロジェクトに取り組んでいる農家民宿に宿泊し、その「魅力」を体感していただきます。
・宿泊いただく農家民宿は、事務局で割振りさせていただきます（1宿あたり3～4名程度、男女別を基本といたします）
・翌日は、中津川地区からJR赤湯駅まで町の車でお送りします（12時ごろ解散予定）

□本ワークショップ参加の対象の方は・・・
①「農都交流プロジェクト」に取り組みたいとお考えの農山漁村地域の皆様（自治体、各種団体、農林漁業従事者、観光関係者など）
②農山漁村地域との交流を通じた組織（企業・団体、大学など）の課題解決に関心のある都市型企業・組織、大学生の皆様

□参加費：研修会・ワークショップ参加費：無料
※ホテル宿泊費（1泊朝食付き・男女別相部屋7,500円）、交流会参加費（5,000円）2日目昼食（1,500円）および会場までの交通費等は、ご参加者負担となります）

□申し込み締め切り：10月11日（金）（ただし、先着順の受付とさせていただきます）

□参加申し込み方法
本書裏面の「申込書」にご記入の上、FAXで下記あてにお送りください。お申込みいただいた方には、後日、参加案内書をお送りします
FAX（03）5909－8068　ワークショップ担当デスクあて

□主催：　農都交流プロジェクト2013推進チーム　　**□企画・運営：（株）JTBコーポレートセールス**
□協力：　山形県飯豊町、飯豊町観光協会、中津川むらづくり協議会、中津川農家民宿組合、（株）みどりのふるさと公社　ほか

◎お問合せ・お申込み：「ワークショップ担当デスク」JTBコーポレートセールス第一事業部内（担当：田中、安藤、芳澤、多辺田）
TEL（03）5909－8480、　FAX（03）5909－8068
○プロジェクト全般のお問い合わせは・・・　農都交流プロジェクト推進事務局（JTBコーポレートセールス営業推進本部内）
TEL　(03)5909-8439　　メール　noto@bwt.jtb.jp担当：堀内、中村、石川

農都交流プロジェクト2013 ワークショップ＆事例研修会 in 飯豊

【農都交流プロジェクトとは】

都市と農山漁村の交流は、都市と農山漁村それぞれに住む人々がお互いの地域の魅力を分かち合い、理解を深めるために必要な取組であり、農林水産省の施策として進められています。

「農都交流プロジェクト」は、都市型企業・組織が、農山漁村地域で人材育成やCSR活動、福利厚生などの企業活動を実施することを契機として、農山漁村地域と都市型企業・組織双方が抱える様々な課題を解決する、都市と農村漁村の交流・連携の新しいスタイルです。
本プロジェクトの効果や意義。都市型企業・組織のニーズなどは、昨年度山形県飯豊町で実証されており、すでに今年度、実際に同町で社員研修などの企業活動を実施する企業があらわれております。

今回のワークショップは、農都交流プロジェクトを実践している飯豊町で行います。
まずはじめに、有機農業家としても有名で、自らも「農都交流」の重要性を説く、星寛治さんの基調講演（予定）。
そして、農山漁村と都市の人々が交流する際のスタートとして非常に重要な、地域のフィールドワークの実習。
それから、ワークショップ参加者全員による、グループワークを行います。

様々な課題を抱える地域の皆さんがひとつところに集まり、それら課題を農都交流でどう解決したらよいかについて、検討・討議・意見交換を行い、具体的なプログラムや企業活動の内容や、個々の地域や企業ごとの展開の方向性などを探ります。
もちろん、飯豐での事例の視察やプロジェクトに取り組み地元の人たちとの交流も可能ですので、農都交流のプログラムづくり・企業活動への応用などの参考にしていただけるものと考えます。

ぜひ、ご参加ください。

■農都交流プロジェクト2013：今後の予定

○農都交流プログラムの実証（モニタープログラム実施）・・・
（11月～12月：山形県飯豊町、川西町、福島県奥会津昭和村、千葉県館山市などで実施予定）
※参加ご希望の方は、プロジェクト推進事務局までお問い合わせください
○まちづくり・むらづくりに関心のある大学生のためのセミナー(12月予定：東京)
○農都交流全国研修会（次年度に向けた農都交流プログラム検討会）・・・・2014年2月（東京）
○「冬の里山暮らし楽校」(大学生対象）・・・・2014年2月下旬（於：山形県飯豊町） ※飯豊町との共催

■農都交流のプログラムの実施・導入に向けた支援体制

①農都交流のプログラムを実施し、都市との交流を創造したいと考えている地域に対して・・・・
→都市型企業等との交流を創出するための、地元での意識醸成や地域資源再評価、プログラムづくりなどをお手伝いします
②農山村地域で、自社（組織）の活動（人材育成、CSRなど）展開を検討している企業のみなさん・・・・
→貴社の課題やニーズに合致したプログラムを展開できる地域とのマッチングをお手伝いします

☆問合せ先 ・・・・農都交流プロジェクト推進事務局（JTBコーポレートセールス営業推進本部内）
TEL (03)5909-8439　　メール　noto@bwt.jtb.jp

農都交流プロジェクト：ワークショップ担当デスク行き FAX (03)5909－8068 (担当・田中、安藤、芳澤、多辺田)

農都交流ワークショップ＆事例研修会 in 飯豊　参加申込書

お名前：	所属先(会社名等)：
所属部署：	役職：
所属先住所：　〒	
所属先電話番号	FAX
メールアドレス　　@	
□ご集合地希望(いずれかにチェック)	(　)JR赤湯駅（11時30分)　(　)ホテルフォレストいいで（13時）
□23日交流会（夕食会）参加希望 （5,000円）	(　)参加する ・ (　)参加しない
□23日ホテル宿泊希望（朝食付き・男女別相部屋7,500円）	(　)宿泊する ・ (　)宿泊しない
□24日昼食（1,500円）	(　)申し込む ・ (　)申し込まない
□【オプション】24日中津川農家民宿宿泊体験（8,500円）	(　)希望する ・ (　)希望しない

第４章

まとめ

ー農都交流活動の拡大と促進に向けてー

1. 企業・大学等と農山漁村の交流の現状について

（1）交流の状況

・全国の農山漁村では都市部との交流活動への取組が進行しており、実際に交流プログラムを持って活動を展開している地域も多い。

・特に「子ども農山漁村交流プロジェクト」に代表されるように、学校教育と連携した取組は全国的にも広がっている。また都市部の生活者（ファミリーや少人数のグループ等）を対象に味覚狩りや収穫体験、自然体験などを提供するレジャー型の交流活動も活発になっている。市民農園や貸農園などの動きもこうした取組の一つといえる。

・一方で企業や大学等の組織的・継続的な受け入れはまだ広がっているとはいえない。以前から体育部やサークルの合宿、企業・組合の福利厚生活動（レジャー、保養施設等）などによる交流はあり現在も続いているが、こうした活動の多くは「場」としての農山漁村を利用するのみで、住民との交流や地域の自然・文化体験といったことは行われていないことが多い。

・近年、企業の社会貢献活動（ＣＳＲ活動）が注目される中で、里山や棚田、水辺環境、伝統芸能など農山漁村の自然や文化を保全するという観点から、企業が農山漁村を支援する動きが高まっており、その活動の中で企業が社員や関係者、取引先、顧客等とともに農山漁村を訪問し、植林や除雪、住民との交流活動は増えている。

・しかし研修活動などで特定の農山漁村を定期的・継続的に訪れる、といった交流活動は一部見られる程度で、まだ十分な広がりを見せてはいない状況にある。

（2）交流に対する意識

・農山漁村では、グリーン・ツーリズムを受け入れている実績から、企業や大学等との交流には前向きであり、定期的・継続的な交流を形成したいという意向は強い。こうした交流が住民の誇りや活力を高め、経済効果や街のにぎわい、活性化につながるということを意識・期待している。

・一方、企業側でも農山漁村での研修等の交流活動に関して、その意義や人材育成、組織強化（コミュニケーション力、チームビルディング等）への可能性・期待効果については認めており、農山漁村との交流についても関心を持っている。

2. 企業・大学等と農山漁村の交流の活発化に向けて（課題と取組の方向性）

（1）交流に向けての課題

・農山漁村では取組を進めたい意向が強いものの、交流関係が進まない理由として以下のような点があげられる。

1）企業・大学等に対する**受入プログラム**が分からない（学校教育との違いへの不安）

2）交流に有効とされる**農家民宿**が整っていないことへの不安

3）交流手法や交流相手となる企業に関する**情報**がない。また**相談相手**も分からない

4）企業等への**アプローチ方法**が分からない

・一方、企業側では、農都交流の考え方は理解されても現実の動きになっていない理由として、以下のような要因が指摘できる。

1）可能性や期待効果は理解できるが、現時点では**効果**が具体的に見えにくく、説明が難しい

2）交流相手となる農山漁村についての**情報が乏しい**（存在が見えない）

3）自社の**研修ニーズに即した情報**（施設・プログラム・体験等）が見えない

4）その地域を**選ぶ理由**や説明しやすい情報が入手しにくい（社内での合意や説得のため）

（2）今後の取組の考え方と方向性について

（考え方）

◆都市型企業と農山漁村の出会いや接点を創出・拡大する（まず存在を認知してもらう）

◆企業が理解しやすいCSR活動のパートナーとしてアプローチし、まず関係を形成する

◆農山漁村での交流型研修の成果や効果が「見える・説明できる」ツールを作成する

◆企業の研修等のニーズに対応した「オーダーメイドのプログラム」づくりを推進する

（方向性（例））

1）企業施設（ビルの公共スペース）などを利用した「農都交流マルシェ」の定期開催（週末など）

2）都市型企業の研修やCSR担当者を招いての「企業ニーズ勉強会」の開催

3）地域資源を活用したCSR活動のプログラム作成と企業へのプレゼン（コンベンションの実施）

4）関心を持つ企業とパートナー地域を決め一緒に研修プログラムを策定しトライアル実施

5）一年間の活動をまとめた「農都交流のススメ（仮称）」の出版（企業の効果が見える内容で構成）

6）企業ニーズの視点から地域の交流資源・プログラムを紹介・発信するWEBの立ち上げ

（一般論ではない地域情報の発信、企業側の関心喚起、選ぶ理由づくり）

7）農山漁村「おもてなしセンター」の検討

（→地域情報の提供やレンタサイクル等の機能を持ったビジターセンター構想を検討）